

人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学

環境報告書 2012

本学環境報告書2010は、東洋経済新報社およびグリーンポーティング
フォーラム主催「第14回環境報告書賞・公共部門賞」を受賞しました

(4)快適空間を目指して！(教育学部)

— 学部内環境のさらなる改善 —

教育学部では、EMS活動が開始された当初から、学生・教職員が快適に教育・研究に専念できる学部内環境の工夫を行ってきました。ソフト面では、環境意識啓発の節電シールや環境標語の募集などです。2011年度は、特に節電の需要が叫ばれる中、「扇風機」や「エコシルフィー（天井から微風を送り、空気を循環させる装置）」の導入を行い、また雨天時の濡れた傘から廊下・階段などへの水滴防止の「傘のしずくとり」も導入し、快適な空間の創造を行い好評を得ました。

Plan(計画)

夏の節電対策の一つとして、大人数教室や事務室に「扇風機」や「エコシルフィー」の導入を、また、雨天時の濡れた傘から廊下・階段などへの水滴防止の「傘のしずくとり」の導入を計画しました。

Do (実施した活動)

計画に従い、「エコシルフィー」を大人数教室や事務室に、また「傘のしずくとり」を3カ所ある教育学部の入り口付近に設置することができました。



エコシルフィー



事務室



傘のしずくとり

Check (評価)

「扇風機」や「エコシルフィー」の効果は、学生や教職員への聞き取りから想像以上に体感温度を下げられるとともに、授業や業務に集中できるとの声が多数聞くことができました。また、節電対策としての効果についても定性的ではありますが、良い結果に繋がることが見込まれる活動でした。

「傘のしずくとり」についても、導入以後、極端に廊下や階段が水滴で濡れることが少なくなりました。このことにより、転倒防止や夏期などは湿度の抑制にもつながるものと評価できました。

Act (見直しの必要性)

2011年度からの新たな試みとしてはじめてのものであり、聞き取り調査などから全体的に高評価を得ています。見直しなどについては、来年度の活動とも合わせて行いたいと考えています。

教育学部では、日頃の教育・研究活動の中心に「人（教育者）を育てる」という大きな柱があります。それを助けるための学部内の環境向上への取り組みは、重要なEMS活動の一つだと考えています。2011年度の活動では、主に施設面に注目し「扇風機」、「エコシルフィー」および「傘のしずくとり」を導入することで、学生・教職員の教育・研究環境をまた一つ改善することができました。